

ドキュメンタリービデオ

「等身大学生～等身大×大学生の成長日記～」の制作



#ビデオドキュメンタリー #チャレンジ応援

目的

失敗を恐れたり、不安を抱えていたりして一歩を踏み出せない若者の背中を押せるような映像をつくる



活動の概要

- **主な連携先**
神戸大学地域密着型サークル「にしき恋」/ロックバンドFISHBORN/
関西大学総合情報学部岡田ゼミ ドキュメンタリー班
- **活動地域**
大阪府高槻市、茨木市、兵庫県神戸市、丹波篠山市
- **活動期間**
2019年～2020年
- **活動資金**
関西大学総合情報学部実験実習材料費

連携にいたる経緯

連携先となった取材対象者はいずれもビデオの制作者と同年齢で、それぞれ全く異なる分野でチャレンジを続けている人々の実例ということで密着取材を申し込み、承諾を得た。



活動内容

大阪府北部を中心に活動する女性三人組のロックバンドFISHBORNと、兵庫県丹波篠山市西紀地区で農業ボランティアなどの地域振興活動に取り組む神戸大学のサークル「にしき恋」の代表者という、ビデオ制作側と同年齢の人々への密着取材によるビデオドキュメンタリー作品を制作する。そのプロセスを通じて制作者たち自身がチャレンジする勇気を感じとり、それまでの不安を振り払って一歩を踏み出そうとする自身の姿も含めて映像作品に描くことで、視聴者にもその勇気を伝えようとする。制作途中で新型コロナウイルスのパンデミックが始まり、中断を余儀なくされたが、その後はオンラインのリモート取材で活動を継続することにより、作品の完成に至った。完成作品は「地方の時代」映像祭2020と、東京ビデオフェスティバル2021に応募した。



活動の成果

- コロナ禍の制約下においてもビデオ制作を続けられる可能性を試すことができた
- 東京ビデオフェスティバル2021で入選作品に選出された
- これまでにあまり例のなかった、取材者自身を対象に含める手法が評価された

今後の課題・目標・展開の可能性

- リモート制作による可能性をどのように拡大できるか
- 制作者の視点の置き方など具体的な制作方法論の再検討
- コンクール等への応募以外での外部評価の可能性をさぐる

総合情報学部 教授 岡田 朋之 Okada Tomoyuki



専門はメディア論、文化社会学。ゼミでは「メディアで社会を動かす」をテーマに据え、メディアの制作実践を通して社会を問い直すことを課題としている。

